

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第8号
令和4年4月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 すさみ町 「5年後、10年後を見すえた支え合い」

すさみ町では、町社会福祉協議会の田中さんが第1層の生活支援コーディネーターとして活躍されています。

平成30年度からの取組として、田中さんは「特に日常生活に困っているのは山間地だろう」と考え、まずは山間地の限界集落等を訪問してニーズ調査を実施しました。

結果は、買い物に困っているものの、ストックを多めにしたり、時々来る子どもに買い物を頼むなどして今のところは対処できているというものでした。しかし、すさみ町では山間地域の一人暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯が増加しており、今後は、移動サービス等のボランティアによる生活支援サービスが必要になると考えています。

ココがすごい！



生活支援CD 田中さん

既存のボランティア団体を把握！

そこで田中さんは、町内ですでに様々なボランティア活動を行っている団体等を把握する取組を始めました。とりまとめたのは、ボランティア活動を目的とした9グループに加え、絵手紙サークルやゲートボールサークルといった集いの場など66グループ！

今回、その中からボランティア団体5か所を訪問させていただき、どういった取組をされているのか、お話を伺いました！

詳しくは次ページ

今後はボランティア気運の醸成、フォーラムの開催！

今後の取組として、住民のボランティア気運の醸成が必要であると考え、今年度はフォーラムの開催を予定しています。

このフォーラムを通して、ボランティア団体の立ち上げのためのキーパーソンの発掘や担い手となり得る方の把握ができればと考えているとのことです。具体的な内容は、協議体で一緒に考えながらアイデアを出し合って決めていきたいとおっしゃっていました！

災害時の支え合いから、日常生活の支え合いへ

すさみ町防地地区は、災害時に自分達で支え合う自主防災組織の取組を行っています。この取組について、防地地区区長の田中さんと尾保手さんにお話を伺いました。



区長 田中さん



尾保手さん

防地地区ではこれまで、避難路の整備や備蓄品の把握を行ってきたところであります。直近の大きな取組としては、30～50歳代の若手8名が中心となって取り組んだ「防災マップ作り」とのことです。このマップは、災害時に支援が必要な方を把握し、「誰がどのように支援するか」が記載されています。尾保手さんによると「防地地区は近所のつながりが強い地域なので、誰がどのように支援するかすんなり決まった。東日本大震災から11年が経ち、防災の意識が薄れてきていると感じるので、この取り組みは良い意識づけとなつた。」とのことです。区長の田中さんは「若手が地域のことを考えてくれて嬉しい。顔をつき合わせての聞き取り調査は貴重な調査だった。「無理のない支え合い」をキーワードに、痒いところに手が届くような支援の仕方を目指したい。」とおっしゃっていました。



マップを作製する若手チームと完成したマップ

県からのお知らせ

●県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。

●皆様の取り組みを紹介させてください。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



すさみ町内のボランティア活動！

今回訪問させていただいたのは下記の5団体。共通しているのは、みなさんとても長い間続けていること！様々な想いを持ち、とても楽しそうに取組をされていましたので紹介します。

ボランティア渚

ボランティア渚は、海岸や港などの清掃活動に取り組んでいます。

中心となっているのは、中家さん。平成17年5月から、毎日、毎朝1時間ぐらいのゴミ拾いを続けています。

メンバーは当初40人程いたとのことですが、現在は4人。お互いに連絡を取り合い、体調を確認し合いながら実施されています。なお、毎朝砂浜でゴミ拾いをしているので、足腰はとても丈夫のことです！

その継続した取組により、中家さんは海岸周辺の住民の方や海岸関係者のつながりの中心になっています。取材の日も、中家さんのご自宅である美容室には、お客様や遊びに来た子どもたちなど、何人もの方々が来られました。



中家さん(上) 活動の様子(下)

配食ボランティア

配食ボランティアとして活躍されているのは、田中さん。週1回程度、社協が作るお弁当を一人暮らしの高齢者の方などに届けています。

すでに20年以上続けているとのことで、そのやりがいを聞くと、「ありがとう」と言ってもらえるのが嬉しいことと、届け先で話しをするのが楽しいからとのこと。また、知り合いが増えてつながりができるのもやりがいになっていることです。

いつも自転車でお弁当を配っているとのことで、取材後は颯爽と自転車に乗って帰られました。「まだまだ健康でいられるうちは続けたい！」とおっしゃっていました。



田中さんと配達に使う自転車

施設ボランティア

施設ボランティアとは、福祉施設を訪問して利用者の方々とお話しをするボランティアのことです。とりまとめているのは社協で、地区ごとに担当のボランティアさんがいらっしゃるそうです。今回は、10年以上ボランティアを続けているNさんにお話を伺いました。

Nさんは、施設の利用者の皆さんとふれ合うことが好きでこのボランティアを続けているとのことで、続けられる秘訣としては、あくまでボランティアだということ。「話しかけるのが楽しいし、利用者さんが自分を覚えていたら嬉しい。自分のために続けています。お給料を貰えるなら辞めてます。」と笑いながらおっしゃっていました。



一緒に絵本を読んでいる様子

送迎ボランティア

芝さんは、移動に支援が必要な方に、自家用車で送迎をするボランティアを実施しています。

7年前にすさみ町に移住してきたとのことで、地域とのつながりを持とうと思ったのが、ボランティアを始めるきっかけだったとのことです。

初めは無償で実施していましたが、今は少しのガソリン代を頂く有償ボランティアの形をとっています。その理由は、利用者の方に「無料で長距離運転してもらうのは申し訳ないから、もうたのめやんわ」と言わされたため。少額でも有償とすることで、利用者も気持ちよく頼めるそうです。病院への送迎が特に多いとのことです。



芝さん

散髪ボランティア

福祉施設などを訪問し、散髪ボランティアをしているのは、古田さん親子。

散髪ボランティアを始めたのは15年以上前、美容室4件でスタートし、年に3回程度の訪問を実施しています。

一度の訪問で多い時には15人ぐらいの方の散髪をすることもあり体力的にも大変のことですが、そのやりがいを聞くと、とにかくおじいちゃんやおばあちゃんの喜ぶ顔が見たいから、とのことです。「髪を綺麗にしてあげると、ニコニコしてくれてとても楽しかった」とおっしゃっていました。今はコロナ禍で中止しています。



古田さん親子